

部活動の地域移行に関する 先進地の視察等について

令和7年2月19日

公益財団法人長野県スポーツ協会

- 部活動の地域移行フォーラムの概要
- 北海道勇払郡安平町の取組の概要

子どもたちの持続可能なスポーツ環境を考える 部活動の地域移行フォーラム

日時

令和6年12月16日(月) 14:00～16:30

会場

北海道立道民活動センターかでの2・7 アスビックホール

パネリスト

竹河 信裕 氏(スポーツ庁地域スポーツ課課長補佐)

井内 聖 氏(安平町教育委員会教育長)

石塚 大輔 氏(スポーツデータバンク株式会社代表取締役)

山本 理人 氏(国立大学法人北海道教育大学岩見沢校キャンパス長)

部活動地域移行の目的

- ◆人口の推移のあり方、子どもたちのスポーツのニーズに対する捉え方等を踏まえ、教える人・環境・場所・種目等、子どもたちのスポーツ環境をバージョンアップしていくことが必要。
- ◆スポーツ庁が言う「地域の実情に合わせて」というのは、自分たちの地域の現状を理解するということ。何が課題か、自分たちの現在地はどこなのか、を考えることが必要。
- ◆地域移行することが目的ではない。大人も子どもも幸せな社会を作ることが目的。スポーツの観点からすれば、子どもたちが一つのクラブで多世代で楽しめる環境を作っていくということが一つの目標。

実施主体がなく進まない場合

- ◆スポーツ庁の実証事業の例を参考に、管理ツール等、真似できるところは真似して、スタッフの事務作業を減らすことも必要。
- ◆スポーツが好きで手伝ってくださる方を1人見つけて、その方にやる気になっていただき、その方が育っていき、というような仕組みが作れるといいのでは。(まずは見守りやサポートからはじめ、そのうち県の研修を受けたり、指導者資格を取ったりして、指導者として育っていくというような事例がある。)
- ◆サポートしてくれる人たちの役割をもっと明確にした方がいいのではないか。ただ「手伝ってください」「サポートしてください」ではなく、「こういうことをやっていただけると助かるんです」といった要件の設定も必要なのでは。

実施主体がなく進まない場合

- ◆「指導者＝コーチ・監督」でなく、日常の活動を一緒にやってくれたり、管理運営をやってくれたりする人も、スポーツ活動には重要な人材。その地域のスポーツを支える、全体に関わる人材を多様に見極めて、そういう人を育成していくということが、重要。
- ◆スポーツと関わるに当たって、「大人が関わる＝する・教える」だけというのは厳しい。まずは、スポーツを「見る」から始めてもいいのでは。今までの部活動だと、「大人は教える、子供が教わる」という視点しかなかったが、スポーツにはもっと可能性があり、それを広げていきたい。

地域クラブの運営スキーム(資金等)

- ◆全国の先進地域の事例では、地域の実情に応じて様々ではあるが、月2,000円から3,000円であれば、保護者の方にご理解をいただいて、ご負担いただけるのではないかと、という状況。
- ◆全て公費で負担すべきとの議論もあるが、地域クラブ活動は好きな子どもたちが参加するもので、参加しない子もいるため、全て公費負担というのはバランスが悪いとの議論もある。今は、一定程度は受益者として負担していただいた上で、それだけで運営するのはなかなか難しいので、どうしても難しいところには公的な負担を入れていくべきではないかという議論が進んでいる。
- ◆受益者負担・公費負担だけでなく、民間企業の力を活用する方法、企業版ふるさと納税やチャリティーイベントで資金を得る方法もある。
- ◆例えば「サッカー場の芝刈りをする」といった協力を得られるのであれば、お金の置き換えられる価値があるのではないかと。

地域移行への思い

- ◆富山県朝日町では「ノッカル」という仕組みがあり、地域住民がドライバーになって交通手段を支えている。今までスポーツ界は、地域スポーツと学校部活動ですみ分けてきたと思うが、今回の改革を機にして、今後は地域全体で共に創っていくことが大事。
- ◆実際にやってみて、仕組みに関しては、学校ができることはほとんどないので、教育委員会がぐいっと進めない限り動かないな、ということを感じた。一方、学校は、学校の役割の棚卸しをしてほしいと思う。教育委員会の役割、学校の役割があると思うので、手を握りながら、進めていただきたい。
- ◆いろんなサービスを持ってる民間企業がある。例えばスマートロックで鍵の問題を解決しようとか、AIカメラで防犯のセキュリティを上げようとか、生徒管理をもっと簡単なものにしようとか。民間の持っているサービスをうまく使うといいのでは。

安平町の概要

人口

7,202人(令和7年1月末現在)

位置

北海道南西部（札幌市から約1時間、新千歳空港から約20分）

特徴

2018年に発生した北海道胆振東部地震により、子どもたちが遊んだり練習したりしていた広場が自衛隊救助ヘリコプター活動拠点になったほか、町内の屋内体育施設が被災し使用できなくなり、このままでは、子どもたちのやりたいことができなくなってしまうとの危機感

⇒地域住民がNPO法人アビースポーツクラブを設立

NPO法人アビースポーツクラブの概要

設立

2019年1月15日

会員数

351人(2024年10月末時点)

種目数

12種目(17団体)

ソフトテニス、一輪車、バレーボール、スピードスケート、軟式野球、チアダンス、サッカー、陸上、乗馬、アイスホッケー、バスケットボール、剣道

方針

「日本一やさしい文化・スポーツ環境」を目指す

- ①子どもの声を第一に
- ②多様な関わりを創出する
- ③地方でも団体種目を諦めない

部活動地域移行に関する安平町の考え方

①ゴール設定

令和7年度で部活動を廃止

②多世代

子どもから大人までの文化・スポーツ環境をつくる

③受け皿

NPO法人アビースポーツクラブに業務委託

休日のみの地域移行では本質的な解決にならない。平日も含めて部活動を地域移行へ移行。

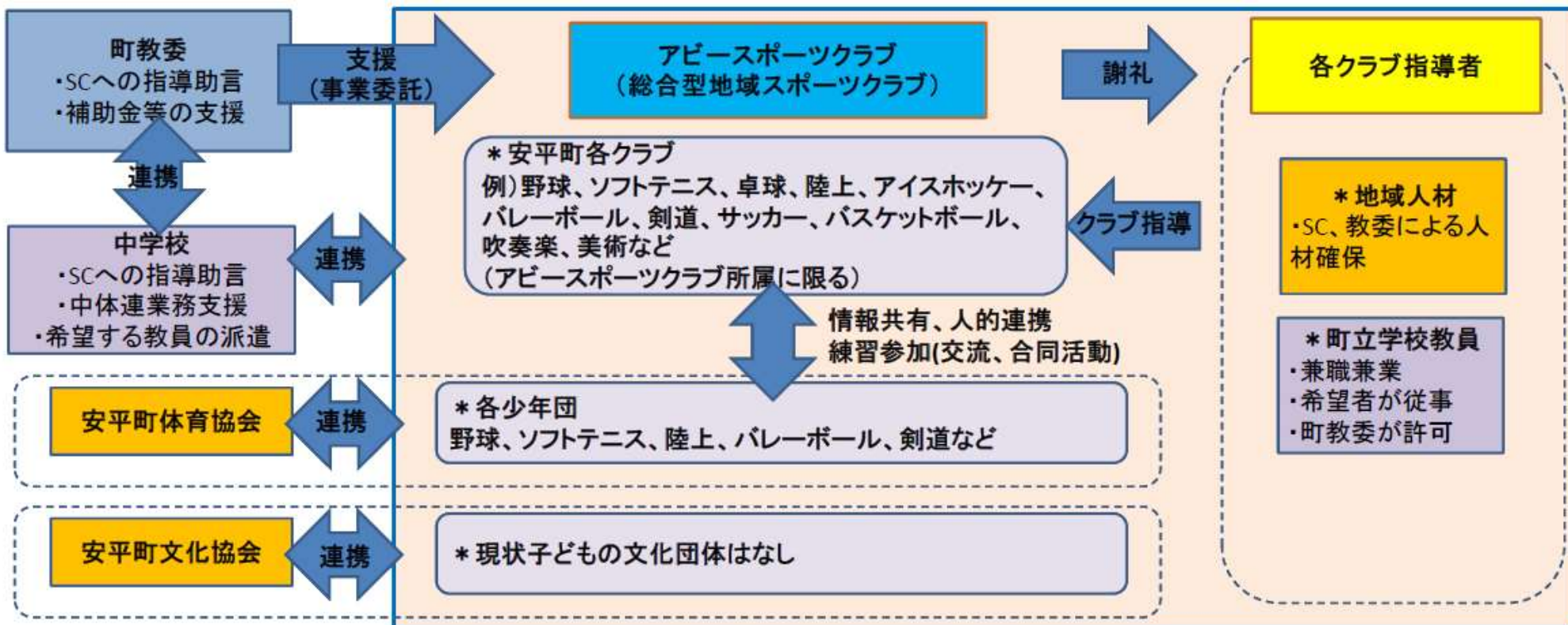
北海道勇払郡安平町の取組の概要



かんぱれ!TEAM長野

公益財団法人
長野県スポーツ協会

部活動の地域移行に係る運営体制



- ・町教委・・・クラブ活動の業務委託(アビーSCへ)、アビーSCへの指導助言、地域人材の掘り起こし
- ・アビーSC・・・クラブ活動の運営(休日の練習、試合)、クラブ指導員の管理、地域人材の掘り起こし、少年団や各種団体との連携
- ・中学校・・・教員派遣への配慮、クラブ運営面のサポート
- ・地域人材・・・アビースポーツSCに登録し、指導員として活動
- ・各少年団・・・クラブ活動との合同(交流)練習、またはチームの一体化
- ・学校教員・・・兼職兼業の申請⇒町教委からの許可によりアビーSCに所属し指導に従事
- ・体育協会・・・アビーSCへの支援、連携(交付金、社会人チームを通じたクラブ活動支援)※アビーとの一体化も視野

地域移行のポイント

- 安平町では、持続可能な地域スポーツ環境の確保(部活動含む)を行う
- 令和5年より総合型地域SC(アビーSC)による部活動の運営支援を行う
- 令和5年4月から可能な部活動は随時クラブ化(アビーSCが支援)
- 指導者はクラブ人材及び指導を希望する教員
- すべての部活動のクラブ化(目標)は令和8年度
- 部活動の地域移行(クラブ化)には保護者の協力が不可欠

⇒地域移行の要件を満たせば、地域クラブ化

【クラブ化の要件】

- ① 活動したい生徒がいる
- ② 活動時間が確保されている
- ③ 活動場所が確保されている
- ④ 指導者が確保されている
- ⑤ 参加体制(送迎等)が明確となっている
- ⑥ 連絡体制が確立されている
- ⑦ 活動保険が明確となっている
- ⑧ 活動費用が明確となっている
- ⑨ 保護者との連携がなされている

地域移行の現状

(令和6年11月末現在)

種目	活動状況	受皿団体等
陸上	クラブ	厚真陸上クラブ、厚真スローイングチーム
野球	クラブ	安平ベースボールクラブ
バレーボール	クラブ	ABIRA Volleyball Club
剣道	クラブ	追分剣道スポーツ少年団
ソフトテニス	クラブ、部活動	あびらソフトテニスクラブ
卓球	部活動	
美術	部活動、学校クラブ	11月頃プロジェクト始動
吹奏楽	部活動	保護者会主導で進行中

(※)安平ベースボールクラブ及びABIRA Volleyball Clubは、部活動の地域移行を受けて新規設立されたクラブ

地域移行に関わる主な取組(アビースポーツクラブ)

「クラブ化」「クラブ運営」「活動の継続」の3つのフェーズに分けて活動を支援

クラブ化支援

説明会の実施

クラブ設立準備

指導者の掘り起こし

指導者報酬の支給手続き

体験会の実施

問い合わせ対応

運営支援

情報発信

会員登録/管理

保険手続き

大会登録

相談対応

活動の継続

指導者の発掘

指導者の養成

資格取得費の補助

平日のバス運行

休日のバス貸出

中型免許取得費の助成

取組の具体例(アビススポーツクラブ)

■これからの安平町の文化・スポーツ環境をつくるワークショップの開催

⇒ 当事者である中学生、小学5・6年生、保護者、地域住民など約30名で開催。

■指導者への報酬支給（有資格者1,600円/時間、資格ない場合は1,200円/時間）

⇒ ①指導者宣誓書の提出、②指導ガイドラインの確認、③有償指導者条件通知書の確認、④アビー正会員登録フォームの入力により指導者登録。月間指導計画書・実績報告書の提出により、報酬を支給。

■指導者研修会の開催

⇒ パルシューレC級ライセンス講習会を開催し、指導者の「量」を確保。
⇒ ダブル・ゴール・コーチング(勝利と人間的成長の両立を叶えるコーチングメソッド)講習会を開催し、指導者の「質」を確保。

■送迎バス運行

⇒ 追分・早来間(約15km)を送迎を実施(利用の有無にかかわらず常時運行)。要望の多かった野球とバレーの活動に合わせてR6.4月から平日3日間の送迎サポートを開始

■保険手続

⇒ スポーツ保険を一元管理。負担を軽減し、マルチスポーツを推進。